

# 生涯教育研修活動報告書

輸血検査研究班

- 1 実施日時：2023年10月1日 9時00分～16時30分
- 2 会場：公立大学法人 埼玉県立大学 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：令和5年度輸血検査実技研修会  
午前の部：新人技師や日当直で輸血に携わる技師必見！血液型判定で困ったときの対処法を実践形式で学びましょう！  
午後の部：不規則抗体スクリーニング検査、同定検査からその先へ！更なる技術を求めて1歩踏み出そう！
- 4 講師：輸血検査研究班班員 および 渡邊 一儀（獨協医大埼玉医療センター）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 午前21名・午後19名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：  
久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 比嘉絢子 小原佑太 川内沙織 廣田渉

## 8 研修内容の概要・感想など

今年度の実技研修会は午前の部を血液型検査、午後の部を不規則抗体検査の二つのコースに分けて開催した。午前と午後の内容を分けることにより受講者の希望に沿った形で実施できたと思われた。

午前中の血液型検査では基本的な検査手技の習得を目的とし、血球浮遊液の調整方法や試験管の準備、試薬および検体の滴下方法・凝集強度の判定法において各手技における注意点を中心に実技指導を行なった。凝集強度の判定では、試験管の持ち方や振り方を講師が見せてから指導を行うことで、正しい結果の判定方法が身についたと思われた。

ルーチン業務ではあまり遭遇しない部分凝集を実際に判定したことで、弱い凝集や部分凝集を疑った場合、再検査ではなく再遠心をすることで、どのように判定像の見え方が変化していくのかを経験できたと思われる。受講者の中には部分凝集を判定した後の検体を、より慎重に判定している姿が見られ、この実技研修会で得たものは大きかったのではないかと感じた。

午後の不規則抗体検査スクリーニング検査および同定検査では、不規則抗体の結果から消

去法を実施し、適合血を選択する流れを再確認した。また産生初期の不規則抗体を想定した酸解離では、ルーチン業務で実施したことのない受講者が多かったため、各検査ステップの注意点を中心に解説を行った。

今回の実技研修会では少人数の班構成であったため、受講者個人のペースで検査を進めることができ、普段の業務で感じていた疑問を確認できたのではないと思われる。

異常凝集を見落とさないためのポイント、その異常反応から何が考えられ、どのように追加検査を進めていくのかを習得できたと思われる。このような実技研修会は正確な手技の習得には大変重要である。知識を得ることは勿論であるが、正しい手技による結果判定が大前提となってくるため、正しい手技で検査を進め、正確な判断を行うことが輸血検査の精度向上に繋がってくると考えられる。今回の実技研修会で得たものを日々の輸血検査業務に活かしていくことを期待したい。



提出日：2023年10月13日

文責：宮澤翔子